

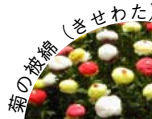
節句の愉しみかた

暮らしのなかにはいろいろな行事や節目があり、その思い出もさまざまです。それぞれが主役の歴史に、息づく記憶。節句にまつわる一人ひとりの物語をご紹介します。紹介しながら、節句の愉しみを発見・発明していきたいと思います。

重陽の節句は、現在の生活から縁遠くなってしまった感じが否めないのですが、陽数の極みである9が二つ重なるおめでたい日としてお祝いをしていました。菊酒を飲んだり、菊の花に綿を被せ、翌日に露と菊の香りが染み込んだ綿で身体を拭う「菊の被綿（着綿とも）」をして、菊の効用にあやかって長寿を願っていました。

「お蔵のお人形さん巡り」（栃木県栃木市）
「これは町おこしの一環として、栃木商工会議所が主催している」

一度9月に飾るといふ風習が、今でも家庭で行われているところはほとんどないようです。しかし、旧暦の9月9日に合わせ、町のイベントとしてや、レストランやホテルのディスプレイとしてひな人形を飾っているところもあります。



菊のくるみ和え

食用菊は、黄色い「阿房宮」（青森県）、紫の「もつてのほか」（山形県）などが有名です。酢の物、おひたし、天ぷらなどいろいろな料理にできますが、くるみともよく合います。干し菊なら、生菊が苦手な人も大丈夫！

干し菊…1と1/2枚
くるみ…10個
にんじん…小1本
砂糖…大さじ2
しょうゆ…少々
水…1/4カップ

- ① 干し菊はさっと茹でる。流水にさらして色止めをしてから、ぎゅっと絞る。
- ② 細切りにしたにんじんも茹でておく。
- ③ くるみはすり鉢でよく搗り、砂糖を溶かした水を入れ、しょうゆも加えながら更に搗る。
- ④ ①と②と③を合わせて和えたら、できあがり。

ものです。今年で第6回になりま
す。昨年は2万3千人の人数があ
りました。『後の雛』を祝い、蔵
町大通りや例幣使街道沿い、巴波
川周辺の見世蔵の70カ所にひな人
形などを飾ります。蔵の町の散策
を兼ねたスタンプラリーで記念品
をもらえたり、期間限定の飲食メ
ニューや土産品も販売され、見る
楽しみと食べる楽しみがあること
も、年々リピーターが増えている
理由だと思えます。今年は10月5
日(金)から11月4日(日)までの開催で
す。」

催しどころ

また新・旧暦を問わずこの日に
因んで、さまざま催しが各地で
行われています。京都では、上賀
茂神社（北区）の「重陽神事」や、
法輪寺（西京区）の「重陽の節会」

などが催されています。東京では
大宮八幡宮（杉並区）の「菊被綿
飾り」、浅草寺（台東区）の「菊
供養」など。出かけてみることで、
家庭で忘れられていた節句の愉し
みかたを味わうことができるので
はないでしょうか。

ほかにもこの時期には菊枕を作
ったり、菊湯に入ったりと、いろ
いろと菊を楽しんでいました。ち
よつとしたことでも旬を味わい、
季節と文化を感じて、豊かなキモ
子になれるかもしれません。

由来もとの中国では、家族で山
や丘に登って災難を逃れたという
故事に基づいた「登高」と呼ばれ
る慣習もあります。これは風習
として今でも残っているそうです。
最近では「老人節（老人の日）」
という敬老の意味合いをもつ日と
して定着しつつあるようです。